水防災意識社会
再構築ビジョン

大規模氾濫減災協議会
第４回 岩手地域メディア連携部会を開催

東北地方整備局
岩手河川国道事務所

1. 概要

○地域のリスク情報や水害情報等について、テレビやラジオ等のそれぞれのメディアが有する特性を活かした、地域住民の理解と避難行動につなげる発信・伝達の取組を、関係機関で共有し実施していくために、第4回 岩手地域メディア連携部会を開催。

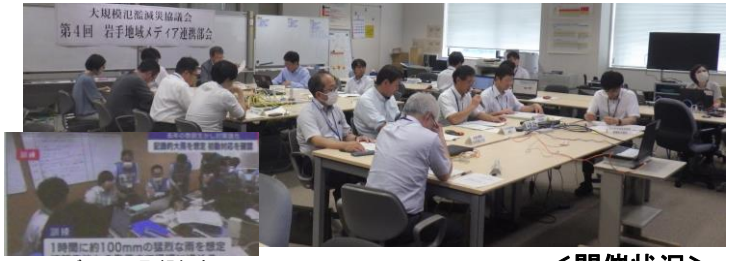
○「災害時における住民への情報伝達」、「平時から住民への周知・啓発による防災力強化のための取組」についての紹介のほか、必要な防災情報やメディアと行政における情報共有の仕方について、意見交換を行った。

2. 日時／実施状況

日　時：令和7年8月25日（月） 13:30 ～15:00
場　所：岩手河川国道事務所　3階災害対策室
　　【WEB併用】
出席者：テレビ局（3）、ケーブルテレビ局（1）、
　　コミュニティFM（1）、新聞社（3）、
　　行政機関を含む14機関、約31名が参加

議事内容

1）取組内容・情報提供等
2）意見交換
　・必要と考える防災情報について
　・気象台との合同記者会見について
　・メディアと行政の情報共有について

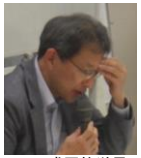


＜メディアの取組紹介＞　　＜開催状況＞


胆江日日新聞社
佐々木氏


岩手日報社
長澤氏


岩手日日新聞社
佐藤氏


NHK盛岡放送局
海藤氏


岩手めんこいテレビ
近谷氏

主な意見等

■必要と考える防災情報について

●テレビ
　➢防災情報について、どれくらいの危険度なのか明確なものがなく、特に夜間における避難行動の呼びかけ方が悩ましい。そのため感覚に頼って報道してしまうことを懸念している。
　➢地域に密着した情報を発信したい。北上川の支川についても情報共有が必要。

●行政
　➢避難情報に関する内容と発信方法について、どのように報道機関の方々と協力できるか詰めていく。

■気象台との合同記者会見について

●行政
　➢これまで仙台で合同記者会見を行ってきており、河川の防災情報を大雨の対象地域に届けられているかが懸念。今後は、WEB会議等を活用して、対象地域の報道機関の方からも直接質疑応答できるような環境を整える。

■メディアと行政の情報共有について

●新聞
　➢防災情報の発信について、洪水時に直接取材する記者向けに、事前に勉強できるような機会がほしい。緊急時に各報道機関が共通の認識を持てるように、事前の情報整理ができているとスムーズな情報発信につながると思う。

●行政
　➢メディアと行政間の情報共有は大切である。わかりづらい防災用語などをリストアップして出水期前に勉強会を開いて、説明する場が必要。
　➢メディア・行政間のみならず、私たち行政もメディアを通して、一般の方々にどのように情報伝達するか学びたい。

・洪水時に直接取材する記者向けの勉強会については、ダム統で例年実施している勉強会とあわせて合同開催できるよう調整していく。
・合同記者会見について、WEB配信や録画データの提供等、岩手県内の報道機関に向けた情報発信の方法を地整内で引き続き検討する。

大規模氾濫減災協議会
第４回 岩手地域メディア連携部会

東北地方整備局
岩手河川国道事務所

参加者の主な意見

◆日本放送協会盛岡放送局（NHK）

・L字放送や避難所情報等は、道路管理機関や警察などへの取材、現地取材など、総合的に入れたものをまとめている。L字情報で発信しながら、地図や映像情報へ落としていく。
・災害時の記者会見においては、仙台放送局の方に参加してもらい、情報を頂いてお伝えしている。

◆岩手朝日テレビ

・防災情報について、どれくらいの危険度なのか明確なものがなく、なかなかニュアンスが伝えづらい。日中であれば避難しやすいが、夜中に避難指示が出たときに、逃げてくださいと報じるべきか、感覚に頼って報道してしまうことを懸念している。
・災害時の記者会見では、仙台に系列局があるが、他県のことになると頼みづらいところがあるのが現状。気象台で実施している台風説明会などで河川やダムの情報を伝えてもらえれば。

◆わいわいネット（株）

・地元に密着した形の情報を出せないかと考えている。必要な情報としては、北上川に隣接している江刺、支流の人首川もある。たとえば、北上川が洪水の恐れがあるというだけでなく、支流の情報や地域に密着した詳細な情報について、ここを見ればそれが分かるという情報（キキクルなど）があればよい。

大規模氾濫減災協議会
第４回 岩手地域メディア連携部会

東北地方整備局
岩手河川国道事務所

参加者の主な意見

◆岩手日日新聞社

・県南エリアを扱っているので、盛岡広域の防災情報はエリア外なので扱わないが、下流域は上流域の影響を受けるという考えは持っておく必要がある。

◆岩手日報社

・ダムの緊急放流についての説明がわかりやすかった。
・人員の面で難しいかもしれないが、防災情報の発信について事前に勉強できるような機会がほしい。緊急時に各報道機関が共通の認識を持てるように、事前の情報整理ができているとスムーズな情報発信につながると思う。

◆胆江日日新聞社

・1日1回の朝刊で情報を出すタイミングで、どのような情報を発信すべきか悩んでいる。参考にどういった情報を伝えればよいか教えてほしい。
→タイムリーな情報を載せるのは難しいと思うが、災害時だけでなく、平常時からどう備えればよいかといった情報を発信すると良いと考えている。